



Red Hat Ansible Automation Platform 2.1

自動化ハブの使用開始

Ansible コレクションコンテンツのデフォルトサーバーとしての Red Hat Automation Hub の設定

Red Hat Ansible Automation Platform 2.1 自動化ハブの使用開始

Ansible コレクションコンテンツのデフォルトサーバーとしての Red Hat Automation Hub の設定

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Getting_started_with_automation_hub.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書では、Red Hat Automation Hub を認定 Ansible コレクションコンテンツのデフォルトソースとして使用する際に必要な初期手順を説明します。フィードバックの提供: このドキュメントを改善するための提案がある場合、またはエラーを見つけた場合は、テクニカルサポート () に連絡し、Ansible Automation Platform Jira プロジェクトの Docs コンポーネントに Issue を作成します。

目次

前書き	3
第1章 RED HAT AUTOMATION HUB API トークンの作成	4
第2章 コンテンツの主なソースとして RED HAT AUTOMATION HUB を設定	5

前書き

Red Hat Ansible Automation Hub は、Red Hat サブスクリプションをお持ちのお客様が、Red Hat および弊社のテクノロジーパートナーがサポートするコンテンツをすばやく見つけて使用できる場所を提供し、最も要求の厳しい環境にさらなる安心を提供します。

Ansible Galaxy クライアント **ansible-galaxy** は、コマンドラインからロールおよびコレクションを管理します。**ansible-galaxy** クライアントが認定済みでサポートされている Ansible コレクションを可能な限り使用するようにするには、**ansible.cfg** ファイルを更新して、Ansible コレクションのプライマリーソースとして Red Hat Automation Hub を使用する必要があります。

本書では、Red Hat Automation Hub を認定 Ansible コレクションコンテンツのデフォルトソースとして使用するように **ansible.cfg** ファイルを設定する際に必要な手順を説明します。

第1章 RED HAT AUTOMATION HUB API トークンの作成

コレクションをアップロードまたはダウンロードすることで、Automation Hub と対話できるようにする前に、API トークンを作成する必要があります。Automation Hub API トークンは、**ansible-galaxy** クライアントを Red Hat Automation Hub サーバーに対して認証します。

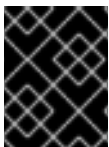
Automation Hub **Token management** を使用すると、API トークンを作成できます。

前提条件

- Red Hat Ansible Automation Platform の有効なサブスクリプション認証情報。

手順

1. <https://cloud.redhat.com/ansible/automation-hub/token/> に移動します。
2. **Load Token** をクリックします。
3. **copy** アイコンをクリックして、API トークンをクリップボードにコピーします。
4. API トークンをファイルに貼り付け、安全な場所に保存します。



重要

API トークンは、コンテンツを保護するために使用されるシークレットトークンです。API トークンを安全な場所に保存します。

Automation Hub をデフォルトのコレクションサーバーとして設定したり、**ansible-galaxy** コマンドラインツールを使用してコレクションをアップロードしたりする場合に、API トークンを使用できるようになりました。

第2章 コンテンツの主なソースとして RED HAT AUTOMATION HUB を設定

Red Hat Automation Hub は、**ansible.cfg** 設定ファイルでコンテンツのデフォルトソースとして定義できます。

前提条件

- Automation Hub サーバーの API トークンを取得します。詳細は、Automation Hub API トークンの作成を参照してください。

手順

- [galaxy]** セクション配下に **server_list** オプションを追加し、1つ以上のサーバー名を指定します。
- 各サーバー名に新しいセクションを作成します。

```
[galaxy_server.<server_name>]
```

- 各サーバー名に **url** オプションを設定します。サーバー URL に **api/galaxy/** サブディレクトリーを含める必要があります。

```
https://<server_fully_qualified_domain_name>/api/galaxy/
```

- 必要に応じて **auth_url** オプションを設定します。コミュニティの Ansible Galaxy には **auth_url** が必要ありません。
- Automation Hub サーバーの API トークンを設定します。

以下の **ansible.cfg** の例は、優先順位の高い順に複数のサーバーを設定する方法を示しています。Automation Hub がプライマリーソースとして設定され、Ansible Galaxy サーバーがセカンダリーソースとして設定されています。

ansible.cfg

```
[galaxy]
server_list = automation_hub, my_org_hub

[galaxy_server.automation_hub]
url=https://cloud.redhat.com/api/automation-hub/api/galaxy/ ❶ ❷
auth_url=https://sso.redhat.com/auth/realms/redhat-external/protocol/openid-connect/token

token=my_ah_token

[galaxy_server.my_org_hub]
url=https://automation.my_org/api/galaxy/ ❸
username=my_user
password=my_pass
```

- ❶ 末尾のスラッシュ / はサーバーの URL に従う必要があります。
- ❷ Galaxy サーバーの URL に **api/galaxy/** サブディレクトリーを含めます。

- Automation Hub サーバーの URL に `/api/galaxy/` サブディレクトリーを含めます。

これで Automation Hub をデフォルトサーバーとして設定し、サポートされるコレクションのダウンロードとインストールを続行できるようになりました。

サーバーリストの設定オプションおよび Ansible Galaxy を Ansible コンテンツソースとして使用方法の詳細は、[Ansible Galaxy ユーザーガイド](#) を参照してください。